

所沢市立所沢小学校

環境目標：環境に対し豊かな感受性をはぐくみ、見方や考え方を養い、実践力を育てる所沢小学校

～環境教育として教育活動を行う4年目の実践～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

昨年度から実施した授業を生かし、3年生でみどり自然課の生物多様性の授業、4年生で資源循環推進課のゴミの循環や地球温暖化の授業を、アンケートや外部機関の提案を入れながら、授業を行った。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているのか】

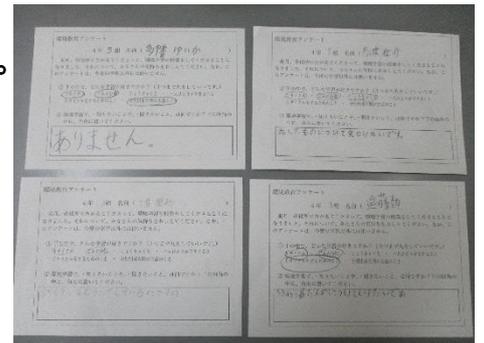
全学年の児童を対象として、環境教育を実践することで、持続可能な社会の実現に向けて不可能な部分な無理にしる、可能なことを見出すことで全体に貢献しようとする。

〈主な教育効果：各学年の教科の学習に沿った活動〉

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

4年生で、所沢市資源循環推進課様による出前授業を行った。

- ・環境に対する関心や知り得たいと思うところが、行動や態度に見られた。
- ・提案を頂いたゲームでは、自分の考えを基にして、回答することで、環境により向き合う様子が見られた。



2 《みどり・生物多様性》

3年生で、所沢のみどり自然課様による出前授業を行った。

- ・子ども達に分かりやすかった。
- ・動物を育ててみたい、動物に興味を持った。
- ・自然の様子が取り上げられて、これからのことを考えるきっかけをいただいた。

子ども達の感想 ・すごい！ ・もっと聞いてみたかった。



3 《資源循環》

1・2年生、全校児童を対象に、

みどりのカーテンの活動を行った。

- ・環境に対して考えながら、しっかりと話を聞くことで、自然への意識が高まった。
- ・新しい取り組みについて、興味を持って取り組み、学習の場で気になった質問をすることができた。



所沢市立南小学校

環境目標：環境問題に興味関心を持ち、環境活動に取り組む南っこの育成

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

すっからかん賞（給食を残さず食べ切る。）

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

生ごみの削減により、ごみの焼却量を減らす。それに伴い、温室効果ガスや二酸化炭素、有害なガスの発生を減らしていく。

<主な教育効果：環境のために行動する力>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

「水道・電気点検」は、委員会に所属している子どもの環境への意識を高めることができた。点検ボードを作成し意識をもって活動に取り組むことができた。5年生では総合的な学習を通して、夏休みの宿題においてSDGs ポスターに取り組んだりしてきた。より意識を高めていけるよう取り組んでいく。

2 《みどり・生物多様性》

「除草活動」を通して、環境美化への意識を高めることができた。PTAとともに子どもたちが積極的に活動することができた。

本校では、栽培委員会でみどりのカーテンづくりも行っている。

落ち葉堆肥づくりを昨年度からスタートした。委員会や教職員への投げかけも増やし、生活科や理科の学習で栽培する植物にも生かしていきたい。このような活動を通して環境教育に触れる機会を作っていけるよう図っていく。

3 《資源循環》

「すっからかん賞」では、子どもたちが完食目指して意欲的に取り組む姿が見られた。本年度は、埼玉県の委嘱を受け、埼玉県小・中学校食育指導力向上授業研究協議会に取り組み、学校全体でも食育への意識を高めた。児童も栄養教諭や養護教諭から話に耳を傾け、食の大切さに気付き、命を頂いているという意識を高め、完食を目指して積極的に取り組むことができた。



【栄養教諭による授業の様子】

今後は、SDGs の視点も含めて環境教育への意識を高めていく。理科や社会科、生活科などの教育活動全体を通して学ばせていきたい。

所沢市立北秋津小学校

環境目標：身近な環境に関心を持ち、 主体的に環境に働きかける児童の育成 ～緑のカーテンと学校ファームの活動を通して～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

環境委員会を中心に実行したい環境に配慮した取組を話し合った。その中で今年度は、緑のカーテンと学校ファームの有効活用に力をいれることにし、実践した。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

緑のカーテンを設置することで室内気温の上昇を抑制し、夏場の空調の使用電気を削減できる。また、学校ファームや普段使われていない花壇を畑として利用することも、光合成によりゼロカーボンシティ実現に貢献できる。

<主な教育効果：主体性の育み、環境配慮意識の向上、環境保全の意欲の増進、食育・地産地消への意識向上>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》



児童のふり返りでは「緑に親しむだけでなく、二酸化炭素の削減につながったらいなという思いでがんばった」とあった。

3 《資源循環》



学校にある銀杏の木から銀杏を採取し地域の方と協力して乾燥させ販売することで地域との交流を深め無駄にしないことができる体験ができた。また、間引いた野菜を飼育しているウサギのエサにすることで無駄

2 《みどり・生物多様性》

活動状況	<ul style="list-style-type: none"> 環境委員会の児童でアイデアで活動できた。ないことができる体験もきた。 夏休みを自分たちで水やり当番を決め、自主的に活動できた。 最後の委員会で活動の振り返りを行い、引継事項などをまとめることができた。
創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> 自分の小学校の環境改善から、所沢市の環境改善につながることを意識して活動できた。
効果	<ul style="list-style-type: none"> 一年間を通じて、意欲的に活動ができた。 育てた作物を職員に購入してもらい、来年度の資金を積み立てることなどもできた。 作物を育てることで、食育・地産地消について考えを広げることができた。

所沢市立荒幡小学校

環境目標： 自然や資源を大切にする小学校 ～緑と触れ合う、資源物の回収～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

- ・みどりのカーテンの育成。
- ・学校農園を活用した農作物の栽培体験。
- ・PTA や地域住民と協働で行う除草作業や落ち葉拾い。
- ・ドレミの丘や荒幡富士、埼玉県狭山丘陵いきものふれあいの里センター等地域の特色を活かした自然体験活動や環境保全活動
- ・資源物の回収。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

- ・建物への暑熱を抑止し、冷房により消費する電力を減らす。
- ・室内温度を下げる。
- ・児童の自然や環境へ親しみ大切にしようとする心を育む。

【主な教育効果：自然への親しみの気持ちの育成、環境配慮意識の向上】

《みどり・生物多様分野》

- ・児童と片務手がみどりのカーテンを育成し、建物への遮熱を抑止し、冷房により消費する電力を減らした。



- ・PTA や地域の方々と一緒に親子除草や親子落ち葉拾いを実施し、環境美化に努めた。



- ・学校農園を活用し、1年生は大根、2年生はさつまいもと山東菜、3年生はピーマン、オクラ、大根、4年生は大根とヘチマを栽培し収穫体験を行い、自然に慣れ親しんだ。



《資源循環》

- ・学校応援団（ARARE）と協働で資源物（新聞紙やアルミ缶）の回収を行った。その際、環境委員会の児童が回収を呼びかける放送をしたり、集まったものの整理整頓を行ったりした。



所沢市立北小学校

環境目標：ものを大切に作る心や 物を無駄にしない心を育てる北小学校

～自分たちにできることから環境を守る取り組みを～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

全校で、ごみの分別について意識をするよう取り組んだ。その中で、特に紙類の回収や裏紙の再利用について力を入れた。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

学校で、ごみの分別や紙類の回収・再利用について意識的に取り組むことで、各家庭での意識を高めることに貢献している。

<主な教育効果：環境保護に対する意識を高め、環境保全に貢献しようとする>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

・SDGsに関する学習（6年生）

3学期に社会科の時間を利用して、6年生の児童が、地球温暖化防止を含むSDGsについての学習を行う。GIGA 端末など様々な資料を活用して、調べたりまとめたりする。



2 《みどり・生物多様性》

・花壇の植栽（栽培委員会）

春と秋の2回、校舎南側の花壇で植栽活動を行った。この活動は、主に栽培委員会が行っているもので、それぞれの季節に合わせた花を購入して植栽活動を行っている。



3 《資源循環》

・総合的な学習の時間（4年生）

総合的な学習の時間を利用して、4年生の児童が、所沢市の東部クリーンセンターを見学し、資源循環（リサイクル）について学習を行った。見学を通して学んだことを、新聞やchromebookなどを活用してまとめた。



環境目標：環境を守ろうとする心を育て、主体的な関与を促す清進小学校

～ビオトープ活動を中心に環境を考える～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

夏休み・冬休みの2つの長期休みの宿題に全学年「エコライフデー&ウィーク」の取り組みを行った。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

長期休みにエコに関する宿題を出すことにより、環境について家庭でも考え、実際に行動している。

<主な教育効果：主体性の育み、環境保全の意欲の推進>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

エコライフデーの取り組みを中心に、全校で節電に取り組んだ。使用しない教室では照明を消したり、冷房を消したりするなど、こまめな節電を行うことができた。また、適正温度、使用する際の温度の目安を提示することで、どのクラスも同じように環境維持活動に取り組めた。

全教職員・全児童が節電を心がけ、実際に行動に移した1年であった。

2 《みどり・生物多様性》

本校では、月に1回、児童や地域の方、学校応援団・教職員などがビオトープの維持や自然体験を目的として管理維持活動を行っている。毎月「おたかの森トラスト」代表の足立さんにご指導いただきながら、人工林の手入れや水の入れ替え、木の剪定の作業などを参加者が協力して行った。低学年～高学年と幅広い学年が参加し、大人と児童合わせて20～30人で幅広く環境維持活動に携わっている。ビオトープ活動で行われる体験学習を通して、自然環境に対する

意識を高めることができた。



また、今年から、活動を学校全体に周知するために「ビオトープ通信」の発行、ビオトープ前日に前回の参加者の感想発表を行うことで、参加人数が増加した。このことから、学校全体を通して、環境への関心が高まっているといえる。さらに、低学年のうちから、保護者の方と一緒にのこぎりで木の剪定を行うことで、環境の守り方を実践から学ぶことができています。

4学年の総合的な学習の時間「自然博士になろう」では、自然環境への興味を高める一環として、ビオトープだけでなく校外のおたかの森でも体験学習を行った。2年連続の取り組みなので、これからも続けていき、4年生で必ず自然環境にかかわる活動に参加し、児童の意欲を高めていく。

3 《資源循環》

教職員・児童共にごみをしっかり分別することを意識して生活し、古紙回収を実施している。また、夏休みの自由課題に「3R啓発ポスター」

を入れ、児童が資源循環について考える機会を設けた。



所沢市立明峰小学校

環境目標：体験活動から学び、みどりと資源を守る明峰小学校

～学校農園の活用を通して～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

牛乳パックのリサイクルを開始し、ごみの削減に尽力した。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

ごみを減らす計画を立て実践することを通して、児童の意識に働きかけ、脱炭素化の推進に貢献している。

<主な教育効果：主体性の育成、環境配慮意識の向上、環境保全の意欲の増進>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

昨年度に引き続き、節水・節電を子供たちに呼びかけた。環境・園芸委員会が節水を呼び掛けるポスターを制作し、掲示することにより、子供たちの意識を高められた。また、4年生では、社会の学習で大久保浄水場や森林と水の関係を学習し、水が限りある資源であることを学んだ。学習のまとめとして、学んだ事を一人ひとりが新聞にまとめて、教室に掲示した。授業や新聞作りを通し、水を大切にすることを育むことができた。

2 《みどり・生物多様性》

本校の中庭には「ダッシュファーム」と呼ばれる畑があり、主に総合的な学習、理科、生活科、自立活動と関連させながら野菜を栽培する活動を行っている。



今年度はかがやき学級（特別支援学級）が

年間を通して米や様々な野菜を栽培し、校内の教員や保護者に対して野菜の販売を行った。

また、4年生は夏・冬に野菜を種・苗から育て、収穫した。生産者として作物の成長を間近で見る喜びを体験し、実りの多い学習となった。育てた野菜は自宅に持ち帰って調理し、食した。育てた達成感と、「自分が育てた野菜」という特別感から、いつもよりおいしいと感じる子供が多かった。

3 《資源循環》

PTAの方との協力もあり、全校児童は年に2度除草作業を、年に1度落ち葉拾いを行った。短い時間ではあったが、どの児童も集中して取り組み、学校全体で協力して取り組めた。集めた雑草や落ち葉は一か所に集め、腐葉土として活用し、ダッシュファームでの肥料として使用した。

牛乳パックのリサイクルを開始し、ごみの削減に尽力した。

(ESD : Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育)

環境目標: ESD を推進する環境にやさしい学校づくり

～一人一人が「自分にできること」を考えて行動できる学校を目指して～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

掃除の時間に児童が校庭の落ち葉を集めて腐葉土作りをし、手作りの良質な土を使って野菜の栽培活動を行っている。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

様々な授業の中で SDGs の 17 の目標を使って、ESD の視点を取り入れた活動を行い、持続可能な社会の実現に貢献している。

<主な教育効果：環境・資源保全・生物多様性等の意識の高揚>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

今年度は教職員2名が所沢市の ESD 調査研究協議会の研究員となり、伸栄小を会場に ESD の視点を取り入れた社会科の授業研究を行った。高学年では、次世代のエネルギー資源や地球温暖化、SDGs 等について社会科や総合の授業の中で「自分たちにできること」を考え、学校



グリーンカーテンづくりで学ぶカーボンニュートラル



各委員会で見つけた校内の課題に関する掲示物

太陽光発電量の報告

や家庭での節水・節電を呼びかけ、環境への意識を高めることができた。また、4年生が育てたゴーヤのつるが3階まで達し、グリーンカーテンづくりによる緑の潤いとカーボンニュートラルの

取組も大成功だった。

2 《みどり・生物多様性》



栄養教諭による食への関心を高める授業

緑の学校ファームの活動では、3～6年生がそれぞれ育ててみたい野菜を、学級ごとに自分たちで決めて、種まき・苗植え・水やり・除草などに取り組んだ。食育では、ゲストティーチャーとして、本校の栄養教諭に、それぞれの野菜の特徴や栄養等について学んだ。また、栄養教諭手作りの毎月の

掲示物からは、食に関する様々な情報を楽しく学ぶことができ、食への関心がとても高まった。給食放送・給食指導では、給食センター・農家さん等の苦労や思い、世界の食糧事情等を児童に伝えながら、残菜量を減らす様々な取組が行われ、成果が見られた。

野菜の栽培・収穫体験では、どの学年も大



野菜の栽培・収穫体験



収穫となり、学校職員の他に、講師やボランティアの保護者、地域の方にも、感謝の気持ちを込めて野菜のプレゼントができた。



落ち葉で腐葉土作

ESD 社会科研究授業



旬の野菜を紹介する掲示物

残菜量を減らすための取組

3 《資源循環》

PTA と環境委員会の児童が、各家庭へアルミ缶・牛乳パック等の資源回収を呼びかけ、リサイクルに出している。また、学校で廃棄される段ボール等の紙類もリサイクルに出し、収益は学校の環境整備に充てている。こうしたリサイクル活動を通して、地球環境保全の一つになることを実感し、持続可能な社会の実現に向けた取組を学ぶ意欲となっている。



牛乳パック・空き缶のリサイク

環境目標：地球にやさしい美しい学校づくり

～「身の回りの環境を大切に作る心」を育てる～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

清掃活動や学習活動を通して、環境に対する児童の意識の向上を図った。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

主体的な活動や学習を通して、エネルギーを大切に作る意識の向上に貢献している。

<主な教育効果：主体性の育み、環境配慮意識の向上、環境保全の意欲の増進>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

<環境にやさしい 美しい学校>

毎日の清掃活動を通して、自分たちにできることを、地道に実践している。全校で「もくもく清掃」(黙々清掃)に取り組んできた。また、清掃時のバケツ利用を促し節電・節水に取り組むとともに、燃やせるごみとプラごみの分別の徹底にも取り組んでいる。

4年生の総合的な学習の時間では、『環境について考えよう』のテーマのもと、SDGsの学習に取り組んだ。17の目標の中から自分で課題を見つけ調べ、Chromebookを活用してスライドにまとめ発表した。調べた結果、地球温暖化や森林の減少、ゴミ問題と食品ロスの問題など、自分たちの生活と深くかかわり身近な問題が多いことに気づくことができた。学習を通して、「世界には満足に食べ物が食べられない人がたくさんいる。食べ物を大事にしていきたい。」「限りある地球の資源をどう使っていけばよいか。持続可能な資源の消費の仕方について考えていきたい。」

「森林破壊が絶滅危惧種を増やしている。私達にもできることは何か考えていきたい。」など、環境問題を自分事として捉えて解決していこうとする意識が高まった。

2 《みどり・生物多様性》

正門と校舎南側の花壇は、特色ある学校づくり支援事業・愛校会の援助を受け、季節によって彩り豊かな花々を計画的に植えた。飼育園芸委員会が中心となり、花壇の水やりや草むしりなど行い、みどり豊かな環境づくりに取り組んでいる。



2年生は「学校農園」で夏野菜やサツマイモ、だいこん等の栽培に挑戦した。保護者の協力を得ながら収穫した野菜で調理実習を行い、収穫を祝うことができた。

3 《資源循環》

給食委員会は、栄養技師の力を借りながら残菜を減少させる取り組みを行った。1年生で食育の授業を行ったり、給食の配り方や「食べる時間」を長くしたりするなどの工夫をした。残食量結果を掲示で知らせ、「楽しく」「残さず」食べる努力を続けている。

所沢市立並木小学校

環境目標：自然の力を活用し、 資源を守るとともに生活環境を向上させる

～資源を守る活動を積極的に行う取り組み～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】
畑を緑でいっぱいにするこゝで、環境活動の一環とする。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】
野菜の種や苗を植え、全校児童で世話をする。

＜主な教育効果：畑を緑でいっぱいにし、資源循環も積極的に取り組んだ＞

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

昨年度に引き続き、代表委員会が使用していない教室や廊下の蛍光灯の節電を呼び掛けた。スイッチへの節電表示をしたり、呼びかけを行ったりした。教室移動の際、教室や廊下、階段の蛍光灯を進んで消す児童が増え、意識の高まりを感じた。

また、教職員の取組として、使用していない教室等に設置してある蛍光灯の本数を減らした。

2 《みどり・生物多様性》

校舎A棟南側に緑のカーテンを設置した。

また、畑の野菜など、緑でいっぱいにするこゝで、ゼロカーボンシティの実現を目指していった。

種まきからかわり、命の大切さと奥深さを実感した。水やりや除草など、主に清掃時に担

当の児童が取り組み、自然と触れ合う機会となった。



3 《資源循環》

代表委員が呼びかけを行い、紙類とペットボトルキャップの回収を行った。

資源回収を呼びかける代表委員会通信を発行したり、低学年の児童にも分かりやすく回収を呼びかけたりして、積極的に活動を行うことができた。

ペットボトルキャップは、NPO法人に送り、外国の医療（ワクチンを買う費用）に役立ててもらおう予定である。



所沢市立中央小学校

環境目標： 家庭・地域と共に

～人と自然の絆を紡ぐ中央小～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

本年度も、地域のボランティアの皆様、教職員、児童によって、ゴーヤを栽培し、緑のカーテンを設置した。これは、実質的な断熱効果もさることながら、地域・保護者・児童への地球環境に対する意識の向上を図り、探究のきっかけを提供することが目的である。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

「建物への暑熱を抑止し、冷房に消費する電力を減らすとともに、児童の意識づけにつなげる」と計画に謳ってはいるが、何よりも、地域のセンターともいえる学校がこの取り組みをすることにより、地域・保護者・児童の地球環境に対する意識の向上に貢献できていると考える。このことが第一である。

〈主な教育効果：児童の地球環境に対する意識の向上である。〉

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

活動名称 節電
活動内容 児童集会でよびかけ、ポスターを掲示し、節電を意識して生活する。
活動の結果 毎年、活動していることであり、新たな成果は見られない。コロナの影響もあり、開放した教室での冷暖房など児童の意識づけに難しい問題が多かった。

2 《みどり・生物多様性》

活動名称 みどりのカーテン
活動内容 校舎南東側に設置。設置作業は地域のボランティアの皆様、教職員。
栽培作業は飼育栽培・美化環境委員会。
活動の結果 どこからでもよく見える「ゴーヤカーテン」は学校の姿勢を地域に伝えることになっている。

3 《資源循環》

活動名称 アルミ缶・スチール缶回収
活動内容 毎月第二金曜日を資源回収の日とし、朝に回収を行う。
活動の結果 自分たちにできる環境活動に対する意識を高めている。
活動名称 配布文章のペーパーレス化
活動内容 校外に配布する文章や職員会議での資料のペーパーレス化を図る。
活動の結果 紙の節約につながるとともに、教職員のゼロカーボン意識の向上につながった。

所沢市立松井小学校

**環境目標：児童の環境意識を高め、心のふるさととなる
緑あふれる、花いっぱい松井小学校**
～緑を増やして脱カーボン～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

みどりとふれあう学習の場や機会を増やし、みどりを守り育てる活動をおこなった。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

みどりとふれあう体験を通して、環境活動に対する意識を高めることに貢献している。

<主な教育効果：環境配慮意識の向上、みどりの保全の意欲の増進>**1 《地球温暖化防止・エネルギー》**

活動名称	地球温暖化防止の活動
活動内容	<園芸委員による活動> ①花壇を花いっぱいにする。(目指す学校像と関連して) ②学校ファームに種から野菜を栽培する。(ダイコン、カブ) ③緑を大切に呼びかけ(ポスターを掲示)
成果	○園芸委員会の活動の中で地球温暖化について学習し、地球温暖化防止についての方法を話し合った。エネルギーというより、みどり・生物多様性の項目に近い内容になってしまったが、環境活動に対する意識を高めることができた。また、ポスター等の掲示により、委員会以外の児童への環境意識を高めることもできた。

2 《みどり・生物多様性》

活動名称	みどりのカーテン
活動内容	<園芸委員会と教職員による活動> 校舎南側の花壇にゴーヤのみどりのカーテンを育成した。今年は、園芸委員会の児童が種から苗を育て、ネット張りも児童が行った。
成果	○今年度は天候にも恵まれ、見事なゴーヤのカーテンができた。その結果、実質冷房をつける時間が削減され、消費電力を多少減らすことができたと思われる。

3 《資源循環》

活動名称	SDGs
活動内容	<4年生による活動> 総合的な学習の一環で環境についての学習を行い、一人一つ学習課題を決めて取り組んだ。また、民間企業(セブンイレブンジャパン)を招聘し、SDGsの視点での商品開発について出前授業を実施した。
成果	○学習のまとめでは、ポスターを作ったり、環境について調べたりといろいろな方法でまとめることができ、児童の環境問題への意識が高まった。

4 《その他の環境活動》

活動名称	①学校農園及び地域での農作物の収穫体験 ②PTA及び地域の方による環境美化活動 ③給食委員会による給食週間の取組
活動内容	①学校ファームに各学年、野菜の栽培を行った。また、地域の方の畑でのジャガイモ、サトイモ、サツマイモの収穫体験も行った。 ②5月、9月、3月と環境整備を(PTA及び地域の方と児童も参加して)行った。 ③給食委員会が給食週間に残飯を減らす取り組みを行った。
成果	○学校(PTA及び児童)や地域における環境活動において、環境に関しての意識を高め、地球温暖化防止に関する環境活動を実践することができた。

所沢市立若松小学校

環境目標：学校、学習林の環境を生かした 環境教育の推進

～学校・児童・愛校会（学校応援団）・地域・保護者の連携を通して～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

◇本校の敷地内には数多くの樹木がある。近くには学習林が接続しており、自然環境にとっても恵まれている。その環境を学習教材として、授業に取り入れ、最大限に生かしていく。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

◇体験的な学習によって児童が環境について興味・関心を持ち、自主的に自然環境を大事にする態度を育成し、一人一人が行動に移すことで貢献している。

＜主な教育効果：環境保全意識の向上、自主性・責任感の育成、自然環境への理解＞

2 《みどり・生物多様性》

1 活動状況について

1 学期

- ・学年ごと、委員会による畑、花壇整備
- ・生活科、理科の学習での植物、昆虫観察
- ・総合的な学習の時間、生活科での学習林での体験的な活動
- ・PTA、学校が連携しての親子除草の実施

2 学期

- ・愛校会から寄贈の花苗の植栽、世話
- ・学年ごとに畑での作物栽培
- ・環境委員会による畑の整備
- ・PTA 主催による落ち葉拾い
- ・愛校会、地域の方による環境整備
- ・5月に注文した秋種苗を植栽、世話
(埼玉県みどりの学校ファーム)
- ・1年生によるチューリップ球根の植栽、世話
(「花いっぱいになあれ大作戦」)

3 学期

- ・栽培委員会による来年度に向けて畑の整備、作物の栽培

2 取り組みの成果

- ・総合的な学習の時間、生活科、理科の学習の際に学習林での体験的な学習を行うことで、自然環境に興味関心を持たせ、大事にしようとする意識を高めることができた。
- ・環境委員の児童が当番活動の仕事として植物や作物の水やり、除草などの仕事を分担して行い、一人一人に責任感を持たせ校内美化に関わらせることができた。
- ・愛校会寄贈による花苗やまちづくりセンター支援によるチューリップの球根を児童自身が植栽することによって植物を身近に感じ、世話する活動を通して、成長していく様子を実感させ、大切にすることを意識することができた。

3 今後の見通しや課題について

- ・コロナが5類になったことで、自分たちで世話をした作物を使って、調理し試食することや、お世話になった方へ料理を振る舞うなどの活動によって興味・関心が高まり、理解が深まると考えるため、検討していきたい。
- ・学習林の整備は、愛校会、地域の方などの協力も得ながら進めているが、学習するのに適した環境とするためには、日常的に敷地内の整備、管理を必要とするためその点が課題である。

環境目標：地域の自然を守る安松小学校

～ビオトープへ行こう！～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

ビオトープに親しみ、保全する活動を通して、自然や命の大切さを実感する。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

ビオトープに足を運ぶ活動を教育課程に組み入れ、保護者や地域の方と共に協働することで「人と人」「人と自然」をつなぎ、児童の自然への関心を高め、森林を管理することがゼロカーボンシティの実現につながる、ということに気付かせている。

＜主な教育効果：環境保全意欲の増進＞

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

3月 4年生 水のビオトープ整備

電気、水道を限りある資源として有効に活用し、省エネの意識を高めた。

- ・使用しない教室等の照明を切った。
- ・電化製品の使用後はコンセントを抜いた。

(めだかの引っ越し)

2 《みどり・生物多様性》

ビオトープに親しみ、保全する活動を通して、自然や命の大切さを実感することができた。

5月 3・4年生 ヤゴ救出作戦

6月 5年生 森のビオトープ整備

(笹刈り・くい打ち)

9月 1年生 雑草の在来種と外来種の見分け方 草取り

11月 6年生 森のビオトープ整備

(歩道づくり)

12月 2年生 森のビオトープ整備と

生き物を知ろう

2月 3年生 森のビオトープ整備

(笹刈り)



- ・8月、3月にはPTA、愛校会、地域の方と校舎内、校庭の清掃活動、木の伐採活動などの環境保全活動を行った。

3 《資源循環》

資源回収活動へ参加することにより、リサイクルへの意識を高めた。

- ・各教室に古紙回収ボックスを設置した。紙類はごみ箱ではなく回収ボックスに入れる。
- ・リサイクル委員による古紙回収、運搬活動。
- ・集団資源回収で得た代金で、じょうろを購入し、資源循環を実感することができた。

所沢市立和田小学校

環境目標：自然への意識を高める学校

～自然の大切さを学ぶ取り組み～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

- ・学校や身近な地域社会の中での体験活動を通して、自然に対する感受性や環境に対する感心を高め、環境や自然と人間との関わり、環境問題と社会のあり方や生活との関わりについて考えさせる。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

- ・児童の意識を高め、活動の定着を図ることで推進に貢献している。

〈主な環境活動：主体性の育み、環境配慮意識の向上、環境保全の意欲の増加〉

1 《エネルギー》の活動

- ・電気製品を使用しない時はコンセントを抜くことの意識化。
 - ・使用していない時の教室、廊下等の照明をこまめに切ることの推進。
 - ・トイレや手洗い場での節水の推進。
- ◎意識は高まっているが、蛇口の閉め忘れ、電気の消し忘れを繰り返し指導していく必要がある。

2 《みどり・生物多様性》の活動

- ・埼玉県みどりの活動、緑の学校ファーム等から補助金を受けての、学校ファームの整備、学校花壇、プランターの整備。
 - ・校舎前のみどりのカーテンの整備。
 - ・生活科や総合的な学習の時間での自然体験。
- ◎委員会の児童を中心に緑化活動を進めることができた。

3 《資源循環》の活動

- ・給食時の牛乳パックのリサイクル活動。
 - ・給食の食べ残しの削減のための活動
(給食週間・給食作品展、給食委員会の児童朝会)
 - ・4年生のクリーンセンター見学(社会科見学)
 - ・4年生の下水道教室
 - ・プリント等の裏面を再利用。
 - ・シュレッダーでの裁断した紙のリサイクル
 - ・再利用紙のトイレットペーパー使用。
- ◎4年生は、校外学習や外部講師による授業を通して、資源循環の大切さについて理解を深めることができた。

4年生クリーンセンター見学



牛乳パックのリサイクル活動。



委員会の児童による緑化活動



所沢市立牛沼小学校

環境目標:環境問題に気がつき、環境を守ろうとする 心をもつ牛沼小学校 ～花と緑と豊かな心、牛沼小学校～

【ゼロカーボンシティ実現に向けた環境保全活動】

環境委員会児童が中心となり、雑紙を集め、本校 PTA 主催の資源回収に協力している。このような活動を通して、日常生活の中で、リサイクル活動に参加している意識を持たせ、環境保全のために児童自らが身近にできることを考えられるような教育活動を展開している。

[学校での具体的な取り組み例]

- ① 学校からの配布資料に「この紙が不要になりましたら、『雑紙』としてお出しください。『雑紙』は貴重な資源です。と表記し、家庭と学校で共通意識が持てるようにしている。
- ② 地域ぐるみでの資源回収や緑化作業を通して、環境保全活動に取り組んでいる。このような活動を家庭、地域と連携することで、子どもたちに身近にとらえさせ、主体的に取り組む姿勢を育てている。
- ③ 職員会議資料をデータ化し、日報などの職員への配布物に裏紙を活用している。

<主な教育効果：限りある資源を大切にしようとする心の育成>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

○児童が取り組むことのできる活動

- ①教室のスイッチのオン・オフ移動教室の際には、教室の電源を切り、節電の意識を高める。(係活動でより意識を高める。)
- ②清掃活動時のバケツを使用バケツに汲んでから雑巾を洗うことで節水の意識を持つ。

2 《みどり・生物多様性》

○花と緑と豊かな心を目指して

学校のランドデザインとして色とりどりの花や、校舎周りのたくさんの木々に囲まれた中で、豊かな心を育てることを掲げている。

また、生活科や総合的な学習を通して野菜や草花の栽培活動を行い豊かな心を醸成している。



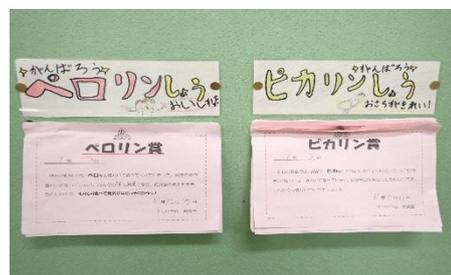
3 《資源循環》

○資源回収 (PTA、職員)

SDGs の視点に立ち、自分たちができるエコ活動として、アルミ缶回収や、資源回収に取り組んでいる。環境委員の児童は、各教室に資源回収に回り、週に1回雑紙を集めている。

○給食の残食を減らす取り組み

給食委員会の児童が、児童集会に向けて食育について活動をしている。食事をつくっている調理師さんについてや、残食について、クイズや、小劇で発表することで、全校児童に、給食を残さず食べることの大切さについて発表をしている。また、残食がないクラスには、「ペロリン賞」を渡し、達成感を得る活動をしている。



環境目標：自然とともに生きる柳瀬小学校

～自然環境を生かし、資源を有効利用する柳瀬小学校～

所沢市立柳瀬小学校

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

委員会活動で、緑化活動を推進するとともに、みどりのカーテンとなる植物の世話を通し、児童の緑化への関心を高め、環境意識の芽生えへのきっかけを提供した。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

緑化活動を進めることで、環境意識の向上に貢献している。

<主な教育効果：環境配慮意識の向上>

1 《エネルギー》

3学期に6年生の理科「電気と私たちのくらし」の単元においてmicro:bitを用いて電気を効率よく利用するためのプログラミングを作る学習を行う予定である。昨年度は、学校のトイレに人がいないと自動で明かりが消えることを再現するプログラムを考え、センサーに人が近づくと明かりがつき、しばらくすると消えるプログラムなどを作成した。



2 《みどり》

飼育園芸委員会では、校舎前の花壇でアサガオとヘチマを育てている。また、4年生が理科の学習で育てているヘチマも併せて「みどりのカーテン」を作成した。飼育園芸委員会の児童や4年生の児童を中心に水やりを

行った。自分たちが種まきから水やりをして育てるという体験を通して、緑化への意識が向上した。ヘチマの葉が茂ることで日陰ができることを感じていた。



3 《資源循環》

代表・計画委員を中心に、アルミ缶を回収し、資源ごみとして活用する活動をしている。毎月第1水曜日に全校児童に呼びかけて、アルミ缶を持ってきてもらい、回収したアルミ缶は、地域の業者に引き取ってもらい、その代金によって学校で使う教材等を購入している。資源ゴミを回収する活動を通して、ゴミとなってしまうものでも資源として再利用することができるという環境意識を高めることができた。



所沢市立東所沢小学校

環境目標：児童の環境意識を高め、自然を大切にしようとする児童の育成を目指す。

～資源の大切さと環境への優しさを学ぶ取り組み～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

緑のカーテン、資源回収、どんぐりの森の充実など、これまで行ってきた環境活動に重きを置いて、自然と児童が環境活動に取り組めるようにした。

<主な教育効果：主体性の育み、環境配慮意識の向上>

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

1 《地球温暖化防止・エネルギー》	
活動の名称と概要	今年度の成果
使用しない教室等の照明を切る。使用しない電化製品のコンセントを抜く。	エコライフデーを生かして、家庭とも連携して行うことで、児童が進んでエネルギーを大切にしようとすることができた。
トイレや手洗い場での節水。	児童の作成したポスターを掲示することにより児童たちに環境を守る意識が芽生えた。
2 《みどり・生物多様性》	
活動の名称と概要	今年度の成果
どんぐりの森の充実	校門の近くの小さな雑木林を利用して、四季の季節の変化を感じられる花を植えたり、メダカの住処を作ったりした。その広場を使って、生活科や理科の学習を行った。スクールガーデナーによる木材をいかしたいす、本棚の整備により、ボランティアの読み聞かせも行われている。
緑のカーテン	緑のカーテンを利用することで、建物への遮熱効果、そこに生活する生物の多様化が見られた。また、収穫したヘチマをたわしにする活用も行った。
3 《資源循環》	
活動の名称と概要	今年度の成果
資源物(牛乳パック・段ボール・アルミ缶・古紙・ペットボトルキャップ)回収	今年度もPTA資源部を中心に、各家庭や地域へ呼びかけ、学校を拠点として多くの資源物を回収することができた。学校・家庭・地域が一体となった資源循環を、子どもたちの学習活動に活かしていくことができた。アルミ缶は、学校行事の際に回収する工夫を取り入れ、意識の向上が図られた。
学校・各家庭で収集した資源物を、学校を拠点として通年収集する。	

環境目標：環境保護について自ら考え、 動く富岡っ子

～自然環境と触れ合いながら、環境について学ぶ取り組み～

所沢市立富岡小学校

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

ふれあい体験農場「富小ファーム」

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

大根、里芋、さつまいも等の収穫したものを保護者の協力を得て各家庭で食べたり、給食に出したりしてみんなで食べたりしている。

<主な教育効果：長いスパンでの活動を通して、体験することのよさと食育の内容理解>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

地域の企業、石坂産業（リサイクル業）の協力で「くぬぎの森環境塾」の活動を行い、エネルギーや廃棄物のリサイクル、自然環境等について学んだ。活動後の児童の感想では、「リサイクルは大事だな」という声があった。

2 《みどり・生物多様性》

ふれあい体験農場「富小ファーム」で、地域の皆様のご指導・ご協力をいただき、低・中学年、特別支援学級を中心に農作物を育て、収穫している。

ファームで育てた作物は、給食の食材として活用され、「育てる」から「食べる」までを体験している。また、収穫したものの皮むきなども体験している。

また、収穫物を保護者の協力を得て各家庭で食べたり、給食に出して食べたりしている。実際に食べることを通した食育をすることで、理解が深まっている。



里芋植えの様子



そら豆の皮むきの様子

調理員さんへの引き渡し

3 《資源循環》

ごみの分別について児童に指導し、プラごみ、紙ごみをしっかり分けることができている。また、紙ごみ、ダンボールは資源回収業者と提携し、資源回収の有効活用・再利用の一助となっている。

環境目標：自然を生かした 緑あふれる美しい学校

～ 体験から学んでいくこと ～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

職員の活動では、職員会議資料や各種手紙の印刷を減らしている。教室では、いただいている所沢 ESD 通信を掲示し、子ども達に啓蒙している。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

ホームページや tetoru を活用することで、紙の使用量はかなり減っている。使っていない教室の電気を消す、給食を残さず食べる等これまでも当たり前前に気を付けていたことがゼロカーボンシティ実現に貢献していることを実感させている。

＜主な教育効果：子ども達の実感を伴った理解につながったこと＞

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

4 学年では、「守ろう！ぼくたちの地球」をテーマに、1 学期は家や学校から出るごみについて調べる活動からごみ問題につなげ、まとめてきた。2 学期には、動画視聴や調べ学習を通して、地球温暖化の原因や対策、自分たちでできることなどを調べ、まとめ、授業参観で発表した。子ども達は、調べる度に出てくるわからない言葉の意味を調べたり、インターネットを使って検索し、また本や図鑑に戻って調べたりしながら、より深い理解につなげていた。また、最終的に自分たちがすぐにできることを自分達なりに考え、学校と家でできることなど分けて考えているグループもあった。

2 《みどり・生物多様性》

全学年で理科や生活科に環境教育の視点を加えながら、学校ファームを利用し、野菜や植物を育てた。野菜や植物を育てる体験を通して、自然を生かした緑あふれる美しい学校づくりにつなげてきた。同時に、今後もビ

オトープの維持を委員会や総合的な学習等を活用し、目指していく。こういった活動を通して、子ども達は自然をより身近に感じ、季節ごとの植物の成長の変化に気づいたり、校庭で見かける昆虫類に興味を持ったりする児童が増えた。

3 《資源循環》

給食指導の中で、各クラスでバランスよく一人分を食べるように指導してきた。完食は難しかったが、配膳員とコミュニケーションをとりながら、バランスよく食べられると身体や環境にどんなことが良いのかや残菜が多いもの、多い時期について教職員で共通理解を図ってきた。1 月は、「感謝して給食を食べよう」という生活目標である。西武ライオンズ平沼選手の力も借りて、好き嫌いなく食べることの大切さについても子ども達に浸透させていく。今後も子ども達に、毎日食べるもので自分の身体ができていることを理解させ、残さず食べることの大切さと、そうすることが環境にも良いことであることを引き続き実感させていきたい。

所沢市立中富小学校

環境目標

ふるさとを愛する心を育てる中富小学校

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】 <古紙回収>

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

各教室に古紙回収箱を用意し、児童・職員・PTAが協力して取り組むことができるように工夫した。

<主な教育効果：教師が呼びかけ、各家庭から持ち寄ることで、皆で環境について考えることにつながった>

2 《みどり・生物多様性》

5年生児童が、総合的な学習で『バケツ稲の栽培』に取り組んでいる。地元の農家に農業・稲作について広くお話を伺い、最終的には収穫し、炊飯、実食を行った。

ご協力をいただいている農家の方は、以前から戦争体験をお話ししていただくなど、大変協力的な方で、農業がもたらす環境等についてもお話をしていただくなど、ご協力をいただいている。

実際に食べることを含めた計画のもと稲を栽培することで、農業の体験活動に終わることなく、ふるさと中富の先人が経験してきた食生活を垣間見ることにつながる学習になっている。



3 《資源循環》

全家庭協力のもと、ベルマークを集め、学習活動に還元している。また、資源回収の観点から、PTAの協力を得て古紙の回収を行っている。

古紙回収については、以前は、収集（学校までの運搬）・結束・業者への郵送等の作業は、職員・PTAの担当が行っていたが、『資源』について一層の意識づけを図るために、「家庭での呼びかけ・無理のない範囲での学校までの運搬」を、児童も行うこととした。

自分たちの行動が、環境保全の一端を担っているということを自覚させることで、喜びを感じさせることにつながったと考えられる。

ベルマークの収集については、その収益から児童用のデジタルカメラ等の購入を検討し、総合的な学習等での活用ができるように、目標ポイントまでの収集を計画した。

目に見える形で活動に取り組むことで「リサイクル」「資源を生かす」という考えにつながっていけるよう、今後も保護者、PTAに協力を呼びかけて活動を継続していきたい。



所沢市立小手指小学校

環境目標：委員会活動・体験活動から 児童の環境意識を高める学校

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

緑のカーテンから学ぶ地球温暖化防止・環境教育、学校農園で育てた農作物の収穫・地産地消に力を入れた。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

地球温暖化防止のための二酸化炭素排出量の削減に貢献している。

<主な教育効果：主体的に活動する児童の育成、児童の環境意識の向上>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

学校全体で、節電に取り組んできました。SDGs 委員会では、児童が環境について学びました。教室環境では、各教室にデジタル温湿度計を設置し、暑い夏でも適温にすることでエネルギーを大切に使うことを心がけました。6年理科の「電気と私たちの暮らし」では、自然の力や限りある資源から電気は作られていることを学習し、児童自らが自分たちにできることについて考えました。



2 《みどり・生物多様性》

昨年度、緑のカーテンにしていたヘチマの種を使って、今年度、新しい緑のカーテンをつくりました。学校農園には、4年生が大切に育てたヘチマのトンネルができました。児童は、ヘチマのトンネルを通ることで涼しさを体感し、暑さ対策につながることを学ぶ体験活動ができました。学校農園では、学校農

園ボランティアの支援を受けて、飼育・緑化委員会の児童が農作物（大根、ネギ等）を育てました。収穫した大根は、自校給食の食材として何度も活用することで、全校児童に地産地消の意識を高めることができました。



3 《資源循環》

教室や昇降口玄関に分別ごみ箱を設置し、児童が意識的にごみを分別して捨てるができるようにしています。ごみの分別方法については、美化委員会の児童が主体的に調べ、全校に伝えました。また古紙回収にも積極的に取り組み、学校全体で循環型社会を目指しています。

今後も、児童が主体的に活動する場を意図的に設定するとともに、教師が自ら範を示し、学校全体で環境意識を高めていくことができるよう取り組んでいきます。

環境目標：地域と環境を大切にする上新井小学校

～ほうさく村（学校菜園）の活用・委員会活動を通して～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

- ・ほうさく村を計画的に使用し、体験活動の充実、資源循環の学習を行う。
- ・栽培委員会を中心に、花植え活動を実施。
- ・「totoru」やホームページを用いた、配布用紙の削減と廃品回収の実施。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

- ・体験学習や理科の学習（植物の学習）に終始することなく、植物によって二酸化炭素が削減できること、収穫した野菜をもとに「食品ロス」を削減すること等を学習し、実生活に生かす意識を高める。
- ・インターネット、ホームページによって「学校だより」、「学年通信」を配信する。用紙の削減により、ゼロカーボンシティに貢献できた。

<主な教育効果：体験活動を通じて循環型社会のあり方やSDGsについて学習する>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

常時活動としては、代表委員や整美委員会の「省エネルギー啓発運動」を行っている。これは、身近な環境について関心を持たせ、今の環境を守ったり、より良い環境になるように改善したりといった取組を推奨するポスターを作成したり呼びかけたりする活動である。特に、節電や節水については、子供たちも身近な課題として捉えていて、意欲的に取り組んでいる。

2 《みどり・生物多様性》

本年度は、栽培委員会を中心に、花壇に花を植え（年3回）、美しい環境を整えることができた。総合的な学習の時間や理科、生活科などの教科学習の中で学校農園を活用することができた。1年生、3年生は身の回りの生き物についての学習、4年生では植物の学習を行うことができた。5年生は、季節に応じた野菜を育

て、収穫することができた。作物を育てることの大切さを学ぶとともに、「食品ロス」をなくそうという意識の高まりも見られた。



3 《資源循環》

本年度から、積極的に用紙の削減を実施している。学校連絡アプリ「totoru」では、学年の連絡、学年通信を、ホームページでは、学校だよりを紙の配布は行わず、配信することで用紙の削減を行った。また、配布物も配信し、用紙は資源回収を行うなど、積極的に資源循環を行った。次年度以降も継続していく予定である。

環境目標：きれいな学校・ たのしい学校・のびゆく学校 ～日々の活動を通じた取組～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

「省エネチェック」

環境委員の児童が、全校児童を対象に、環境に配慮した生活を送れているか調査をする活動。今年度は、環境委員が各クラスで課題を設定し、改善目標を立てることで、以前よりも環境について考えられるよう実施した。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

節電や節水の呼びかけを毎週行うことで、地球環境やエネルギー問題について身近に考えさせられるようにする。

＜主な教育効果：主体性の育み 環境配慮意識の向上 環境保全意識の増進＞

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

環境委員会の活動として、省エネチェックを毎週月曜日に各クラスで実施した。その中でも今年度は、教室を開ける際の節電の呼びかけ、水道の蛇口を閉める節水の呼びかけ及びポスター作成を重点的に行った。その結果、児童たちの節電・節水の意識が高まった。

2 《みどり・生物多様性》

①学校ファーム

学校に隣接する学校ファームでジャガイモ・ダイコン・トウモロコシなどを栽培した。栽培した作物は、生活科や総合的な学習の時間で活用した。勤労と収穫の体験活動を通して、児童の食に対する意欲を高めたり、作物が育つまでの苦勞について理解を深めたりすることができた。

②緑のカーテン

飼育栽培委員会の児童が中心となり、学校東側のフェンス沿いや校舎南側に緑のカーテンを設置した。昨年度よりも設置を早めたことで、植物が早く生育し、緑のカーテンとしての効果を高めることができた。

3 《資源循環》

職員室前にペットボトルキャップの回収箱を設置し、キャップの回収を行った。集まったキャップは、ペットボトル以外のキャップが混入していないかどうかを随時チェックし、回収袋に入れていた。家庭にも協力を呼びかけたことでリサイクルの意識を持たせ、多くのキャップを集めることができた。



所沢市立北中小学校

環境目標：児童一人一が主体的に活動する 持続可能な環境教育

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

ごみを減らすための牛乳パック、再利用の取り組み

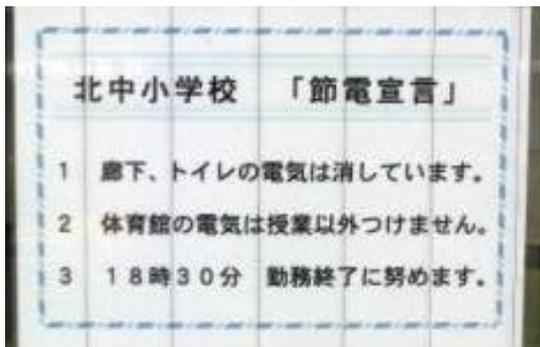
【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

牛乳パックの再利用による、温室効果ガスの削減

<主な教育効果：自然に興味・関心を持ち大切にしようとする態度を養えた>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

朝会で節水・節電を児童に呼びかける取り組みを行ってきた。掲示物において、児童だけでなく、教職員自ら節水・節電に意識を高めることによって、子どもたちへの声掛けを行ってきた。年度初めに、各学級の清掃用具を見直して、バケツのないクラスを無くした。それにより、掃除の時間では、全クラスがバケツを用いて掃除をし、節水に努めている。



2 《みどり・生物多様性》

学校ファームでは、生活科、理科の学習と関連し、じゃがいもや大根、ピーマン、キャベツなどの野菜づくりをすることができた。ひょうたん池の環境を整えることにより、生物の多様性を学びました。児童は、ひょうたん池にいる、金魚に非常に興味・関心をもって生活している様子が見られた。



3 《資源循環》

今年度の新たな取り組みとして、牛乳パックの回収を行った。児童一人一人が飲み終わった牛乳パックを洗って開く活動を通して「上手に開けた」、「新しい牛乳パックになるのが楽しみ」などの前向きな声が聞こえた。環境目標の「児童一人一人が主体的に活動する環境教育」に近づけたと感じている。

所沢市立山口小学校

環境目標：狭山丘陵の豊かな自然とともに

～持続可能な社会を目指そう～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

- ・省エネルギーポスター作り
- ・ゴミの分別の徹底
- ・リサイクルの推進

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

- ・緑のカーテンによる節電

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

4年生の社会の学習では、水の大切さを学ぶために、各家庭の水道量を調べた。日頃の生活で節水の意識を持つことで効果が上がることを学ぶことができた。学校で使う水道量も児童の意識も高まり昨年に比べて減らすことができた。

2 《みどり・生物多様性》

ホタルの幼虫は、環境委員会で飼育・観察を行なっている。また、ミヤコタナゴは飼育委員会が飼育している。4月下旬に「柳瀬川の最上流をきれいにする会」の会長さんからお話を伺い、川の会の方と共に柳瀬川にホタルの幼虫を放流する予定である。柳瀬川に「ホタルが飛び交い、ミヤコタナゴが泳ぐ川」という地域の方の願いを実現するため、所沢市が掲げる「ふるさと所沢を愛する心」の育成に取り組んでいる。

生活や理科の学習では、1年はアサガオ、2年はサツマイモ、3年はひまわり、4年はヘチマ、6・7組はダイコンを植えた。今年度は昨

年度の反省を生かし、園芸委員会の児童が花壇の整備をしっかり行い、多くの種類の花がたくさん咲いた。

また、理科の授業でジャガイモの葉で光合成の観察等、多くの学年で理科の観察活動ができた。ゴーヤの種を植えたが、猛暑のためほとんど枯れてしまった。アサガオを咲かせることができ、緑のカーテンができた。

3 《資源循環》

4年生の社会の学習では、東部クリーンセンターに見学に行き、ゴミやリサイクルについての興味・関心が深まった。

山口小学校PTAと児童会が協力して、使用済みインクカートリッジ、ペットボトルキャップ等の回収に取り組んでいる

さらに、職員室や教室からの印刷済みの紙などを回収しリサイクルセンターに依頼している。「ものを大切にする心、ものを無駄にしない心」を育み、環境教育を主体的・計画的に進めることができた。



所沢市立泉小学校

環境目標：環境教育を推進し、児童が身の回りの環境への意識を高められるようにする。

～身近な環境から考え、身近な自然を大切に作る学校づくり～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

全校をあげて古紙回収をすることで、古紙が再生紙の原材料になることを児童が理解し、主体的な行動につながるよう実施方法を工夫した。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

環境委員が各学級にポスターや児童朝会等で古紙回収を呼びかけることで、古紙のリサイクルに貢献している。

<主な教育効果：環境保全への意識啓発、環境活動への貢献意欲向上>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

○緑のカーテン

今年は、緑のカーテンの範囲を広げ、1年生の教室の窓を覆うようにした。エアコンの効きをよくして、電気消費量を抑えられる環境を整えた。



○学校ファーム

泉小ビオトープ内に、1坪程度の広さの田んぼが2面あり、5年生が総合的な学習の時間の取組として、米づくりに取り組んだ。学習支援者の協力を得て、田おこしから収穫までの一連の米作りを体験した。



2 《みどり・生物多様性》

○泉の森の丘

大きなクスノキがある「泉の森の丘」を耕地した。環境ボランティアや園芸委員会の子供たちが植栽し、水やりから除草等の管理を行った。



3 《資源循環》

○古紙の回収 クラスごとに、ごみの分別を行っていて、燃えるごみ、ビニールごみ、古紙と分けた。日常の掃除の時間に種別にゴミを回収したり、環境委員会が回収したりした。

○ペットボトルキャップ回収 クラスごとに収集し、環境委員会が回収した。このキャップはNPO法人を通して換金され、ワクチン等に充てられている。

所沢市立椿峰小学校

環境目標：みどりと資源を守る椿峰小学校

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

- ・各種プリントのペーパーレス化

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

- ・職員会議資料をはじめ、保健だより、給食の献立表等のプリント類の配付をやめ、サーバへの保存や学校ホームページへの掲載をすることで紙の節約とした。

<主な教育効果：環境配慮意識の向上及びSDGsへの取組意識の向上>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

【全校省エネ活動】

今年度は屋上防水工事の関係で、屋上に設置されているソーラーパネルの一時取り外しが行われ、学校ホームページにて周知した。それとともに、節電、節水等の取組を児童に呼びかけ、日常の電気使用量や水道使用量等に関心を持ち、限りあるエネルギーを大切にすることを意識をもてるようにした。



2 《みどり・生物多様性》

【花いっぱい、みどりあふれる学校づくり】

2年生と特別支援学級が、学校の畑で野菜作りを行った。さつまいもだけでなく、つるも図工でリース作りの材料として使用した。



また、委員会の児童と、学校応援団「花組」の協力により、常に花いっぱいの学校づくりに取り組むことができた。

3 《資源循環》

【資源回収】

毎週金曜日に、委員会の児童が中心となり、新聞紙・雑紙・ダンボール等の資源回収に年間を通して取り組んでいる。

環境目標：地域と共に環境・資源を守る三ヶ島小

～地域の環境を生かして学習し、地域の自然を守る大切さを学ぶ～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

森の落ち葉をたい肥として利用した循環型の農園づくりを行うとともに、児童の主体的な活動となるよう実施方法と工夫した。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

循環型の農園づくりにより農園づくりを行っている。また、地域の自然の豊かさに気づき、地域の自然を守ることが地球温暖化防止に役立つことを考えさせた。

<主な教育効果：主体性の育み、環境配慮意識の向上>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

環境委員会による自然環境を整えるための活動を児童が積極的に行っていた。花壇への水やりや生活環境を整えるための活動を児童自らが取り組むことができた。節電・節水に対する呼びかけも行い、節電・節水に対する意識を高めることもできた。

地域の自然を生かして各学年で地域の環境を生かした体験活動を行った。3年生は地域のお茶園の協力を得て、茶摘み体験をした。



5年生は八幡湿地保存会の協力により稲刈り体験をした。地域が自然豊かな場所であることを学び、それが地球温暖化防止につながることを体験することで学ぶことができた。

2 《みどり・生物多様性》

むくろじ農園では農園協力隊の方の協力を得て、各学年（1～5，こすもす学級）が農業体験をすることができた。季節に応じた野菜を栽培し、収穫することを通して植物の生長や植物を育てる大切さを学習することで、環境保全の意識を高めることができた。



3 《資源循環》

家庭で出たアルミ缶や古紙を回収する活動を行っている。今年もたくさん回収することができた。児童が資源リサイクルの仕組みや意味を学習することで、「資源を循環させる」ことの意義を意識させることに役立っている。

所沢市立若狭小学校

環境目標：身近な自然に触れ、環境の変化を 実感する若狭小学校 ～四季折々の自然とのふれあい～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

さまざまな学年において、ゼロカーボンに向けた取り組みについて紹介し、身近で自分たちにもすぐにできることを考える授業を行った。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

家庭や学校内でできる取り組みを考えてもらうことで身近にとらえてもらい、節電、節水などの推進に貢献している。

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

さまざまな学年においてゼロカーボンシティ、節水についての授業を行った。ゼロカーボンという取組がどのようなもので、なぜ今話題になっているということについて図を用いて話をした。その中で、身近に取り組めるのが節水、節電、食品ロスなどがあることをわかってもらった。特に節水については節電やほかの環境問題にも大きくかかわることを話した。

2 《みどり・生物多様性》

校舎西側にある学習林で1年間を通して体験活動を行った。学習林のそばにある畑では、春には低学年がサツマイモを植え付け、夏にはジャガイモを特別支援学級あゆみが収穫したり、夏野菜(トウガラシ、シシトウ、ピーマン、ナス、プチトマトなど)を植えたりした。秋にはサツマイモの収穫が行われ、多くのサツマイモを収穫することができた。1学期は緑が多く茂る環境の中で、理科や生活科の授業で虫の観察や植物の観察にいろいろな学年が訪れた。2学期になり、秋が深まると多くの木が紅葉し、

冬に近づくにつれて落葉した。落ちている実や落ち葉を使って遊んだり、図工の授業の中で活かしたりして自然に触れる体験を行うことができた。1年を通して現れる昆虫や植物がどのように変化をするのか身をもって体験することができた。



3 《資源循環》

若狭小学校育成会と連携し、牛乳パックの資源回収を行った。年に数回行い、各回において児童は箱いっぱいになるほどの牛乳パックを家庭から持って来ることができた。

所沢市立林小学校

環境目標：地域とともに、緑を育て、環境を守ろう

～花壇で笑顔～

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

みどりを増やし、二酸化炭素の吸収量を増やす。グリーンカーテンの設置。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

児童の探求を深めることで、みどりを増やし、二酸化炭素の吸収量を増やす。

<主な教育効果：主体性の育み、環境配慮意識の向上、環境保全の意識の増進>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

委員会活動の一環で、節電・節水のポスターを作成し、全校で実践している。また、職員も空き教室等の電気をこまめに切るように心がけている。

職員室では、窓側の電気を消したり、蛍光灯の数を減らしたりするなどの工夫をしている。

2 《みどり・生物多様性》

毎年、グリーンカーテンを設置している。1年生の教室前に設置することで、教室内の温度上昇を防ぐ。そのことにより、エアコンの設定温度を上げることに成功している。

児童と庁務手を中心に花壇の充実を図っている。季節に合った花を植えることで、緑の良さを感じることができた。



林小学校の児童は花壇の花を見るのを楽しみしている。また、来客の方も「きれいですね。」「素敵ですね。」と言ってくださり、笑顔になっている。

3 《資源循環》

環境委員会を中心に、ペットボトルキャップの取組をしている。また、PTA活動の一環としてアルミ缶回収に取り組んでいる。児童はリサイクルや再利用について生活の一部となっている。

本校は昨年度残食が多かったのですが、養護教諭が給食センターの栄養士と連携し、残食を減らすことに成功した。内容として、栄養士さんに教室訪問をしていただき、給食の大切さや栄養について話してもらった。



所沢市立宮前小学校

環境目標：ふるさと東狭山ヶ丘の 緑豊かな学校と地域づくり

【ゼロカーボンシティ実現に向け、力を入れた環境活動】

アドバイザーの指導を受けながら、「おおたかの森」の中で自然とふれ合い、自然保護の大切さを学ぶとともに、森の保護活動を体験する。

【どのようにゼロカーボンシティ実現に貢献しているか】

子供たちが、体験活動を通して環境保全の大切さを実感し、そこから自分たちの力のできることを検討し、活動を行うことができた。児童の意識啓発及び実践力の向上がゼロカーボンシティ実現に貢献している。

<主な教育効果：環境保全への意欲の向上、態度の育成>

1 《地球温暖化防止・エネルギー》

節電を呼びかける掲示の工夫と呼びかけについては、これまで使用されてきた掲示物の補修を行い、継続的な取り組みを行った。

2 《みどり・生物多様性》

昨年度、長年放置され、荒れていた宮前ビオトープを再生した。今年度はその維持に努め、プールで生まれたヤゴを捕獲し、宮前ビオトープに放すなど活用した。子供たちは、地域の動植物が宮前ビオトープに戻ってくることを期待している。

おおたかの森では、今年度もおおたかの森トラストの方々の力を借りて、森を守る必要性和整備する方法を具体的に学ぶことができた。子供たちは、おおたか

の森での活動を楽しみにしており、みどりを大切にする気持ちと行動が年々育ってきている。

3 《資源循環》

今年度は、残食を減らす取り組み（食育）に重点におき、力を注いできた。

給食センターの栄養士を講師に招き、廃棄する食品を減らすための考え方や健康になるための食生活について学び、意識が高まった。今後もこの学びを生かし、食育を一層進め、子供たちの生活に根ざした食育を推進していきたい。

来年度以降取り組んでいこうと考えていることは、学校敷地内の落葉から腐葉土を作り、資源循環を通じた栽培活動、緑化活動を進め、子供たちの学習に還元していきたい。